

発表項目 (行事名)	第46回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」の入賞者の決定について														
概要	<div>1 空知管内コンクール受賞者等（敬称略） 応募総数 141 編を審査の結果、次のとおり決定しました。</div> <table><tr><td></td><td>作品名</td><td>氏名</td><td>学校名</td></tr><tr><td>優秀賞</td><td>水と共に暮らす</td><td>はがわ 羽川 りこ 莉子</td><td>砂川市立砂川中学校 2年</td></tr><tr><td>学校賞</td><td colspan="3">砂川市立砂川中学校</td></tr></table> <div>2 表彰について 「北海道知事」名で賞状及び副賞を贈呈します。 個人賞（最優秀賞、優秀賞及び入選）は、所属中学校を通して本人に伝達することとしております。 伝達行事の実施等は、学校にお問い合わせください。 ※個人賞及び学校賞の賞状及び副賞は本日、総合政策部計画局土地水対策課から各中学校あて発送。</div> <div>3 中央審査について 最優秀賞および優秀賞の2編は、全日本中学生水の作文コンクール中央審査の対象として国土交通省に推薦しています。 中央審査において受賞した際は、改めて、受賞内容等を発表します。</div>				作品名	氏名	学校名	優秀賞	水と共に暮らす	はがわ 羽川 りこ 莉子	砂川市立砂川中学校 2年	学校賞	砂川市立砂川中学校		
	作品名	氏名	学校名												
優秀賞	水と共に暮らす	はがわ 羽川 りこ 莉子	砂川市立砂川中学校 2年												
学校賞	砂川市立砂川中学校														
参考	・入賞者一覧・・・・・・・・・・・・・資料1 ・最優秀賞および優秀賞作品・・・・・・資料2 ・北海道地方コンクールの概要・・・・・・資料3														
報道(取材)に当たってのお願い	・4年に1度開催される全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議（GEWEX）が初めて札幌で開催されます。そのプレイベントとして開催する市民講座等で作文展示を行います 詳細は資料3をご覧ください。 ・全文掲載の場合、作文の電子データの提供も可能です。														
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク	※道政記者クラブ、上川総合振興局記者クラブ、オホーツク総合振興局記者クラブ													
担当 (連絡先)	空知総合振興局地域創生部地域政策課（担当者：今中） TEL ダイヤルイン 0126-20-0030														

第 46 回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入賞者一覧

最優秀賞

作 品 名	氏 名	学校名及び学年	管内
水と命	<small>みうら</small> 三浦 かりん	下川町立下川中学校 1 年	上川

(敬称略)

優秀賞

作 品 名	氏 名	学校名及び学年	管内
水と共に暮らす	<small>はがわ</small> 羽川 <small>りこ</small> 莉子	砂川市立砂川中学校 2 年	空知

(敬称略)

入 選

作 品 名	氏 名	学校名及び学年	管内
水の姿、一面を知り考え、向き合う	<small>こいずみ</small> 小泉 <small>こずえ</small> 梢恵	旭川市立北星中学校 2 年	上川
自然と水と私たち	<small>とがわ</small> 戸川 <small>ろっか</small> 六花	旭川市立北星中学校 2 年	上川
水とどのように関わるか	<small>はちや</small> 蜂谷 さやか	旭川市立北星中学校 1 年	上川
世界中にたくさんの幸せの種を	<small>はら</small> 原 みひろ	北見市立相内中学校 2 年	林-ツク
ヤマベから知る水	<small>やちもと</small> 谷地元 <small>ゆこ</small> 結子	旭川市立北星中学校 1 年	上川

(敬称略、五十音順)

学校賞

学 校 名	備 考
旭川市立北星中学校	上川
北見市立相内中学校	林-ツク
砂川市立砂川中学校	空知

(五十音順)

水と命

下川町立下川中学校 一年 三浦 かりん

私の母は少し変わっている。「広い世界を知るため」と言いながら、私と妹の学校を半年間お休みにしてメキシコとカナダに三人で滞在している。基本的に、朝、勉強を終わらせて、午後は美術館や図書館、遺跡など様々な場所に連れて行ってもらっている。メキシコシティでは移動の足であるバスがよく止まる。その多くはデモで道が封鎖されるためだ。その日は一時間歩いて美術館まで行く羽目になった。

メキシコは、デモが多い国で住環境の改善や女性の地位向上など様々なデモを見かけた。ニュースで見たところその日のデモはキレイな水を求めるものだった。デモの垂れ幕はAgua y la vida。「水と命」。

メキシコは、そもそも水道水を飲むことができない。水質が良くないらしい。シャワーや歯磨きくらいなら問題ないが、料理や飲み水には使えない。浄水器を通して飲むか、コンビニで十リットルの水を買って、部屋まで運んで使わなければならない。しかも、暑く乾燥した国なので日本にいた頃よりもずっと喉が渇きやすい。それなのに、キレイな水を求めるデモとはどういうことか？

調べてみると、メキシコでは数年前から水不足が深刻で、断水により週に二～三回しか水道から水が出ない地域もあるそうだ。しかも断水は、いつ終わるか分からず、何日もシャワーを浴びられないことすらある。水を使うメキシコ伝統の祭も中止に追い込まれた。大きなタンクを買う余裕のある住民は、水売る給水トラックから普段の何倍ものお金を払って水を買う。

しかし、こんなに水がないと騒いでいるのにコンビニには数え切れない種類の砂糖入りジュースが並んでいる。この話をメキシコ人にすると意外なことがわかった。

メキシコの貧しい地域では、清涼飲料水の工場を誘致しその条件として工場に優先的に水を供給することを約束した。当時はここまで水が不足していなかったが環境破壊と異常気象が続き、十分な量の雨が降らなくなってしまったのだ。

人々の日常水が供給されないにも関わらず、清涼飲料水は簡単に安価で手に入るため人々は水の代わりに砂糖入りジュースを飲む。メキシコ人は一人一日約二リットルの清涼飲料水を飲む。貧しい地域に工場を建て豊かにしようとした結果、雇用が生まれ経済は潤ったが、住民の生活が水不足になってしまった。

レストランでは、お水が出てこないのでも飲み物を頼む。私と妹は普段日本ではあまり頼まない砂糖入りジュースを買ってもらい、大喜びだった。しかしメキシコでは、幼い時から砂糖入りジュースを飲むので、糖尿病や肥満などが大きな社会問題となっている。

これを知ってから私達のような旅人が大事な水を無駄にできないと思い、いつもよりも水を大事に使っている。元々我が家の水の使用量はひとり暮らしと同じくらいなので、これ以上節水するのは難しいが、シャワーの水量を減らして頑張った。

「世界中の人がキレイな水を飲むためにはどうすれば良いと思う？」そう母は問いかける。私にできること？メキシコに住んでいないのにできることはあるのか？よく考えると、メキシコの水不足は環境破壊が原因だと言われている。これは国境に関係なく世界全体が関わっている問題だ。

私は、日本では月一回ゴミ拾いをしている。それは、自分達の街をキレイにするためだ。私は、今いる場所でもゴミ拾いをすることにした。なぜなら、私は地球という大きな惑星をみんなでシェアしているからだ。小さな活動だが、世界中の人がキレイな水を飲めるように、今日も私は自分のことをやる。

水と共に暮らす

砂川市立砂川中学校 二年 羽川 莉子

私が暮らす砂川市。「砂川」の名前の由来は、アイヌ語の「オタ・ウシ・ナイ」からだという。「オタ」が「砂」、「ウシ」が「多い」、「ナイ」が「川」。そこから「砂川」と名付けられた。名前の通り、砂川は川と深い繋がりがある。

砂川は、石狩川とその支流である空知川が合流する位置にある。明治時代からこの河川を利用してきた。木材の流送や砂利の採取。水田が開かれ、様々な工業も盛んになっていった。やがて人口が増えて砂川市となり、私は今、この町で暮らしている。

私が登校する通学路に橋があり、その下に川が流れている。目を向けると、レジ袋のゴミやペットボトルなどが、無造作に捨てられていた。最初は、嫌だなあと思った程度だった。でも、ゴミの海洋汚染やマイクロプラスチック問題を知ってから、真剣に受け止めるようになった。人がポイ捨てするゴミが、水を汚す大きな問題を生み出しているのだ。

水を汚すのは、私たちの水への関心が薄いせいではないだろうか。

人間にとって、なくてはならない水。水は、限りある貴重なものである。この日本でも、水不足や水質汚染は現実のものとなっている。そうした環境の中でも、水道から透明なおいしい水が出てくるのは、その仕事に携わっている人たちの努力の賜だ。下水道や河川を管理するのも、全て人の手によるものである。その人たちに水のことを全て任せるだけでは、大切な水は守りきれない。水を使う私たち一人ひとりが、水を守るために行動を起こすべきなのだ。

川と共に暮らしを築いてきた砂川。先人たちの時代から計り知れない苦労と努力を重ね、水の恩恵を受けてきた。水道事業を始め、それは現在も続いている。

石狩川は大きな河川であるため、大雨により川が氾濫し、大きな被害を受けてきた。その被害を防ぐために、八年をかけて砂川に大規模な遊水地を完成させた。遊水地には、大雨が降ったときに石狩川の水を一時的に貯留することで、洪水被害を防ぐ役割がある。そのおかげで、私たちは安心して暮らせているのだ。

砂川の火力発電所では、石狩川の水を利用している。水を加熱して蒸気にし、タービンを回転させて、私たちの暮らしに必要な電力を生み出している。使用済みの温排水は、冬場は流雪溝で歩道の雪を解かすために再利用されている。また、新しくできた化粧品の工場も、工場排水を浄化して、トイレの水として再利用している。しかもその水を再び浄化したあと、池に貯めて水に含まれる余分な養分を微生物や植物に吸収させて、よりきれいな水にしてから石狩川へと流しているのだ。

地域の水を守ってきた苦労の歴史、今も続く水を守るための取組。砂川で暮らす私たち一人ひとりが、しっかりとその思いに応えるべきだと思う。私たちこそが、水の恩恵を直接受けているのだから、水を守るための取組を行っていくことが大切なのだ。

私も、水の出しっぱなしや油や洗剤の排水に気を遣うようになった。ゴミのポイ捨ても絶対にしない。私たちの手で、こうした小さな取組から始めていくことが、水を守ることに繋がっていくのだと思う。中学校でも、地域の清掃活動を行っている。私も参加したとき、水への影響を考えながら、少しでも環境がよくなればと思って、ゴミを拾った。

先日、通学路の川面に鴨がいた。自然豊かな光景に微笑ましく感じた。砂川の遊水地にも、毎年、たくさんの渡り鳥がやってくる。豊かな水が育む豊かな暮らしや自然。水と共に私たちは暮らしている。これからも、水の恩恵に感謝し、水を大切に守りながら、この砂川で暮らしていきたい。

第46回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」の概要

1 目的

「水の週間（8月1日～7日）」の行事の一環として国が実施する「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、北海道においても次代を担う中学生を対象に「北海道地方コンクール」を実施し、広く水に対する関心を高め理解を深めることを目的とする。

2 応募要領

第46回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」応募要領（※抜粋）

平成26年7月に施行された水循環基本法第10条において、国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、8月1日を「水の日」と定められました。国では、この日からの一週間を「水の週間」とし、「全日本中学生水の作文コンクール」を実施するなど、毎年様々な行事を行っています。

北海道においても、この「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、次代を担う道内の中学生を対象として、「北海道地方コンクール」を次のとおり実施します。

1 テーマ 「水について考える」（題名は自由です。）

2 主催・後援

主 催 水循環政策本部、国土交通省、北海道

後 援 北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道中学校長会

3 応募資格 令和6年度（2024年度）に在学中の道内の中学生
（中学生と同じ学齢の者を含む。）

3 その他

全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議（GEWEX-OSC）の市民講座にて作文のパネル展示を予定しております。

（1）主催・後援等

主催 全球エネルギー水循環プロジェクト国際事務局

後援 国土交通省、北海道 ほか

連絡先（事務局） 第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議 札幌実行委員会
電話 011-706-6188

（2）日時及び場所

7月6日（土）12時～12日（金）17時 チカホ（憩いの空間W）

※チカホは管理の都合上、夜20時～朝6時まで衝立で隠します。

7月7日（日）10時～18時 市民講座

鈴木章ホールホワイエ

（北海道大学工学部フロンティア応用科学研究棟2階）